



水をまもる

吉野川土地改良区 理事長

ばんどうふみお
坂東二三男

私が吉野川土地改良区に携わって二十余年となります。その二十年の中で感心することは、吉野川土地改良区が水に対して真摯に取り組んできたことです。

吉野川土地改良区は、前身の吉野川普通水利組合(設立昭和九年)を含めると、設立してから八十年が経っております。この八十年間の中で、吉野川土地改良区は「良い水」を取るために努力をしてきた改良区といえると思います。幸いにも、徳島県には吉野川という河川があり、農業の水を取るには適しております。

吉野川土地改良区管内の農業にも吉野川の水が使われております。

吉野川土地改良区は二市二町(徳島市・鳴門市・松茂町・北島町)を受益区域としており、改良区管内には旧吉野川と今切川が流れておりますが、昔は潮水が遡ってくるためになかなか水を取れない、地中の塩分濃度が上がって作物が作れないなど、大変苦労をしてきたと聞いております。

この地域で農業をしていくために、安定して水を取りたい、「良い水」を取りたいということで吉野川普通水利組合を立ち上げ、旧吉野川と今切川に潮止め樋門を建設するに至りました。この潮止め樋門の建設工事を行うにあたっては、地元の名士である三木与吉郎氏に大きく貢献していただいております。

現在は、潮止め樋門から水資源機構が管理する河口堰になりましたが、吉野川土地改良区が潮止め樋門を使って「良い水」を確保してきたことで、この地域は農業を行う一大産地になったと思います。当改良区管内の農産物としては、徳島ブランドであるレンコンがあり、出荷数全国二位となっております。また、さつまいもの『なると金時』もあり、全国的にも有名となっております。こういった作物が作れるのも、吉野川土地改良区が水資源機構とともに農業で使える水を守ってきた、また、安定して水を供給してきた成果だと思っております。

私自身も農業を営んでおりますので「良い水」を取りたい、「良い水」を使いたい、「良い水」でいい農作物を作りたいという思いがあります。

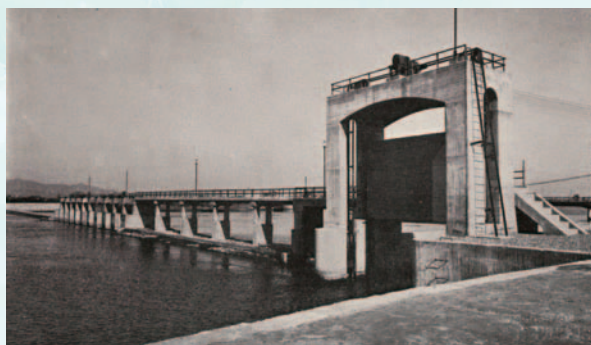
その思いを叶えてくれたのが吉野川土地改良区だと思えます。水資源機構旧吉野川河口堰管理所と一緒にこの地域の水を守ってほしいと思います。



潮止め樋門建設状況



さつまいも収穫作業風景



今切川潮止め樋門

(写真提供: 吉野川土地改良区)